

先端技術導入事例

ICT を活用した効率的な捕獲わなの導入（宇部市）

1 導入の目的・背景

宇部市では、猟友会の会員を非常勤嘱託職員の有害鳥獣捕獲員に任命して有害鳥獣捕獲活動に取り組んでいるが、捕獲員の高齢化が課題となっている。そのため、アニマルセンサー2 及びほかパトを導入しイノシシ捕獲の効率化を目指している。

○アニマルセンサー2

獲物の大きさを判別して箱わなの扉を閉めることで、繁殖能力が高いイノシシの成獣を集中的に捕獲することを目的としている。

○ほかパト

わなの作動を管理者にメール通知することで、有害鳥獣捕獲員の見回りの負担軽減を目的としている。

2 導入した機器の概要等

導入機器名及び数量	アニマルセンサー2 2基 ほかパト 中継機 2基、子機 2基
設置場所	中継機：東岐波地区、吉部地区 子機：市内全域 (親機は霜降山展望台、小野地区に設置済)
対象鳥獣	イノシシ
設置時期	令和4年3月



※R元、R2年度にも導入



(ほかパト親機)



(ほかパト中継機)



(アニマルセンサー2及びほかパト子機)

3 効果

イノシシ（成獣）123頭（R2.2～R4.3）

導入機器（R元～R3）による捕獲 R元:5頭 R2:83頭 R3:35頭

○実際に ICT 機器を活用される有害鳥獣捕獲員に効果等を実感していただき、捕獲員間での機材共有、活用・普及の推進に向けて運用方法の検討を進めていく。

4 使用者の声

○従来、出勤前に罠の見回りを行っていたが、罠作動時にメール通知があることから、見回り回数が軽減した。また、罠作動時のメール通知において、作動時間が確認できることから、イノシシの活動時間についても把握することが可能になった。

○経験を要する仕掛けの必要がなく、また、罠が作動した際に通知が届くことから、事前に止め刺し等の道具の準備や人手の確保が可能となり、猟友会員の負担の軽減につながっている。